

## 臨時総会議事録

日時 昭和34年11月8日 13.25—13.50

場所 九州大学農学部防音教室

出席普通会員 123名 委任状総数 105名

書面参加会員 96名 以上総数 324名

10月20日現在で普通会員は1563名で、定款第36条による出席会員総数 313名並びに委任状および書面によらない出席会員数63名の条件を満して総会は成立。(備考参照)

次に議長は出席会員の互選によるのであるが、例により倉石大会委員長を推することを一同に計り、満場一致同氏と決定した。

倉石六郎氏が議長席につき、臨時総会が開始せられたが、その内容は次の通りである。

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| (1) 挨拶                  | 島山理事長   |
| (2) 提出議題審議              | 常任理事会提出 |
| (i) 数値予報国際シンポジウム開催に関する件 | 正野理事    |

提案理由

現在数値予報は世界の多くの国で遂次実用化の段階にはいり、基礎研究ならびに応用研究がともに活発に行われ、気象学の中心問題の一つである。

また国際的協力も日増しに増大しており、1956年以来ドイツ、スウェーデン、米国などにおいて順次年々国際シンポジウムが開かれている。

本年始めにIBM 704型電子計算機が気象庁に設置され、多くの成果を得つつある現在諸外国の専門家の間にも希望があるので、日本で国際シンポジウムを開くことは時機を得たものとする。そこで日本において数値予報国際シンポジウムを当学会主催(気象庁および日本学術会議後援)のもとに1960年秋開催したい。

以上の理由の説明とともに正野理事から、この春の総会で非公式に賛同を得ており、その後の準備状況等について説明があり討論にはいった。2, 3の質問があり、特に中共が参加するよう努力して欲しいとの強い希望が述べられた後、採決に入り、出席会員全員異議なく賛成したが、結局書面参加を含め賛成 322票、不賛成 2票であった。

### (3) 報告

#### (i) 明年度の総会および春の大会について

関西支部長滑川理事から明年度の総会および春の大会は大阪において開催されることに現地です承したとの報告があつた。

#### (ii) 原水爆禁止とアピールについて

淵理事から原水爆禁止アピールに関する原水爆禁止日本協議会事務局長黒田秀俊氏から島山理事長宛の書面の紹介があり、この問題は臨時総会の議題とせず、賛成の人に署名してもらおうよう取扱いたい旨報告があつた。

## 岡田賞授賞式

日時 昭和34年11月8日 13.15—13.25

場所 九州大学農学部防音教室

島山理事長から逸話まじりの推せん理由の紹介があり、藤田哲也氏は目下渡米中なので、代りに実弟の碩也氏に賞状および賞牌を贈って万場拍手で迎え盛会裡に式を終了した。

備考 総会成立の出席会員総数が313名のところ当日は10名不足で、付帯条件として郵便遅延の理由による翌日のものを加え成立することとなり、9日午前中に到着した21名を加え正式に成立することとなった。